

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団体名	一般財団法人北上市文化創造	
施設名	北上市文化交流センターさくらホール	
助成対象活動名	人材育成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	7,897	(千円)
公演事業	0	(千円)
人材養成事業	247	(千円)
普及啓発事業	7,650	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いわての演奏家とつくる 地域交流プログラム市町 村連携モデル	2/21・2/22・3/11・ 3/15・3/23	阿部美礼(ピアノ)、菊池葉子 (メゾソプラノ)・山口麻衣(ピ アノ)、牧野詩織(フルート・、名須 川明子(ピアノ)	目標値	217
		北上市内保育園・北上市 内病院・さくらホール内		実績値	99
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	217
				実績値	99

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	古典芸能への興味関心育 て事業：歌舞伎公演＋レ クチャー＋関連取り組み	4/22・5/31・6/2・ 6/17・7/5・7/8・3/14	講師：葛西聖司 出演：尾上菊之助、市川團蔵、坂東 彦三郎、中村梅枝 他 道中指導：黒沢尻歌舞伎保存会 さくらホール職員	目標値	1,510
		さくらホール大ホール・ 小ホール・市内各所等		実績値	1,378
2	クラシック音楽普及のため のコンサートとアウト リーチ事業	9/23・10/24・10/31・ 11/1・11/13・11/14・ 11/28・11/29・1/19	Vol.1 コハーン・イシュトヴァーン (クラリネット) Vol.2 村治奏一(クラシックギ ター) Vol.3 菅家奈津子(メゾソプラ ノ)・中鉢聡(テノール) さくらホール職員	目標値	330
		さくらホール小ホール・ 市内小中学校		実績値	584
3	さくらホールパフォーマ ンス小劇場しょうげき！ 事業	12/17～20・1/5～6	出演：劇団ドラマティコ・ヴェジ ターレ(ピエトロ・フェナーティ、 エルヴィラ・マスカンツォーニ) 演奏・WS：牧野詩織(フルート)、 井上仁一郎(ギター) 製作：ラヴェンナ・テアトロ、ドラ マティコ・ベジターレ 日本語版企画・制作：並河咲耶 (konjacLLC)・さくらホール職員 舞台スタッフ：ダリオ・モレッ ティ、さくらホール舞台職員	目標値	293
		さくらホール小ホール		実績値	154
4	子どもの舞台芸術体験事 業：さくらホール KIDSART	4/10・4/24・5/1・ 5/22・6/5・6/10・ 6/26・7/3・7/24・8/7・ 8/21・9/4・6/2510/2・ 10/23・11/13・11/27・ 12/18・12/25・1/8・ 1/29・2/5・2/19・3/5・ 3/10・3/21	音楽：菅家奈津子(メゾソプラ ノ)、御園生瞳(ピアノ) 身体表現：山田うん(ダンサー、振 付家、演出家) アシスタント：川合ロン(ダン サー) 地域講師：名須川明子(ピアノ、歌 唱指導) さくらホール職員	目標値	610
		さくらホール小ホール・ 東北歴史博物館		実績値	738

【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
5	ピアノ音楽活性化事業： ファツィオリレクチャー	9/12・2/11	越智晃（ファツィオリジャパン調律師）、名須川明子（地元ピアニスト）、及川佐恵子（地元ピアノ教師）、駒井ゆり子（ソプラノ歌手、二期会会員）、さくらホール職員	目標値	150
		さくらホール中ホール・小ホール		実績値	92
6	アマチュアバンド活性化事業：バン活「バンド塾 & 自主制作バンドライブ支援」	7/22・9/1・10/14・3/2	高橋学（ギタリスト）佐藤弘基（ベーシスト）北田了一（ピアニスト）沼直也（ドラマー）・さくらホール職員	目標値	80
		さくらホール小ホール・バンド練習室		実績値	77
7	北上市青少年鑑賞事業 劇団前進座 出前芝居 『くず〜い 屑屋でござい』	11/8・9	劇団前進座	目標値	1,860
		さくらホール大ホール		実績値	1,923
8	オリジナルダンス創作による地域行事「盆踊り」活性化協働事業	7/18・8/7・8/11	コンドルズ 香取直登、安田有吾 【地元の踊り 講師】幸の会（小鳥崎さんさ） 【編曲・演奏・指導】ブラックボトムブラスバンド 大嶋康司（トロンボーン）、横田誓哉（ドラム）・さくらホール職員	目標値	1,000
		さくらホール野外会場・市内各所		実績値	1,364
平成30年度の目標値、実績値				目標値	5,833
				実績値	6,310

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

さくらホールの社会的役割は、日常的な文化芸術活動を地域に浸透させつつ、芸術を核にした人的関係性を構築し、心豊かな地域社会の形成に寄与することである。文化芸術活動は、多様な価値観を持った人々が創作・練習・上演までのプロセスを共にしながら、ひとつの作品を作り上げることにより、他では得られない達成感や自己実現を、与えてくれる。当事者間に強いつながりを生むことができ、機会さえあれば未経験な人々も触発されて加わり、そこで人的ネットワークは広がっていくことになる。このような出来事がいつも起こり得る場の提供は、ネットワークをさらに大きくし、新しいコミュニティーの形成や地域コミュニティーの再生に貢献する。

また、開かれたまちの文化施設として、いつも誰でも気軽に集い、事業に参加参画できるよう多種多様な自主事業を展開しアーティストとの出会いを創出する。さくらホールの特徴的な練習諸室である”アートファクトリー”で行われる市民の日常的な文化芸術活動の充実と、住民自らの創造的な文化芸術活動を支援し、普及啓発の取り組みを行う自主事業の充実は、さくらホールのミッションにつながる両輪である。

対象事業活動の中で、普及啓発事業としてコミュニティーアートプロジェクト事業の実施を見送りすることとなった。この事業はアーティストと市民文化や地域資源を結びつけ、若い世代を出会わせ、公演観賞やワークショップ参加だけではない新しい枠組みとして、新しいことを面白がってやる創造的、クリエイティブな体験を提供することを検討し、施設の特徴を生かして全館ロールプレイングゲームのようなパフォーマンスを展開したいと考えていたもの。

365日の施設営業の中で全館日程調整が難しいことや、演劇やダンス関係の演出家等からのアーティスト選定においても、舞台芸術作品とは違うので関係構築などもう少し詰める必要があったためである。また、第一に安全性が担保されなければいけないが、「危険があるから」「あれはだめこれはだめ」ではなく、アーティストとの関わりによって、実現するための創意工夫をするプロセスが重要であり、ホールの姿勢をどうやって示していくか調整する必要もあると考える。

さくらホール開館時から5年間、幼児児童対象にした全館イベントを実施してきたが、当時の子ども達が「ホールって面白い」と思ってくれる世代に育っている。また、ホールとしてのその経験値が生かされ、自主事業ではなくても、貸館でお仕事体験全館イベント等、まちの人たちがホールを使いこなしてくれるようになってきた。今までの事業取り組みと、これからの地域への創造的な貢献をつなぐ事業として、オープンな施設を活用し、アーティストの発想力や、それを受け入れ新しい視点を取り入れる地域を描いて再検討していくこととする。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

日常的な文化芸術活動が盛んで、文化資源が豊富な地域の特徴、施設の特徴、強みを生かした自主事業を24事業26公演実施した。「文化で北上市を元気に！」をスローガンに掲げ、さくらホールに人々が集い、観賞と参加によって人々に感動と希望をもたらし、自己実現の機会を提供して人々の創造性を育み、まちづくりの拠点となるよう実施することができた。

また、ホールの専門人財として高い専門的技術を持った舞台技術専門職員を配置し、さくらホールの長所である高レベルでの確かな技術サービスを提供し、自主事業の創造性の充実のみならず、市民の日常的な文化芸術活動の水準を高めている。

これらのことから、自主事業公演観賞参加者は合計24,625人、年間利用者数は293,011人、ホールの施設稼働率の月平均は80.9%であり、そのうちアートファクトリーの稼働率の月平均は91.4%を達成しており、多くの市民に愛される施設となっている。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

人材養成事業では、地域でのアウトリーチを5回実施したが、参加者アンケートは対象者が回答しづらい状況のため、未実施である。演奏家へのアンケートは、ホール担当者のサポート体制についての設問を設けた。アウトリーチ実施先の環境整備について、実施先との事前打ち合わせができている、資料等の準備について良いコメントが多い。また、プログラム開発や通し稽古の相談を頻繁にできる点について良いコメントが多い。ホール主催以外にも県内の教育委員会からアウトリーチに招聘される等、実績が出ている。次年度は事業実施にあたり外部講師を招聘し、第三者の視点から、演奏家とホール職員について人材育成になっているかの評価を実施する。評価に基づいて改善を行い、事業の有効性を高める。

普及啓発事業で継続的に実施している事業の参加者数は、前年度より増加した。参加者アンケートの実施事業での満足度は90%を超え、参加後の意識変化項目では「実施ジャンルに親しみがわいた」「アーティストから刺激を受けた」「人間関係に広がり生まれた」「ホールが以前より身近になり足を運ぶ回数が増えた」「文化芸術が持つ人々を結びつける力を実感した」等の回答が多かった。参加者の自主性が向上し相互交流が生まれ、アーティストからの指導や交流により、日常的な活動が促進されている。

意見交換会では、肯定的や発展的な意見が出され、事業を継続していく中で、関係者の主体性が変わってきたのが見て取れた。事業を何のために実施するのか市民と共有した上で、事業に関わってもらう必要性を相互に認識し、フェイスtoフェイスで声を集めて、見直し、改善するPDCAサイクルをうまく活用し、事業をブラッシュアップしている。

また、事業を通して多数の教育機関、社会福祉法人、地元企業や商店街及び自治協議会等の組織との連携で多くの取り組みを実施し、社会包摂や地域づくり機能を発揮した。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材育成事業では、アウトリーチ回数及び内容の変更が生じた。当初計画していた研修会とアウトリーチのうち、作曲の連続プログラムについて、対象の作曲家の日程調整が難しくなり、実施できなくなった。それに伴い、アウトリーチに実績のある地域の演奏家プログラムに変更したため、新しい連続プログラムに取り組む事業期間は短縮された。その分、アウトリーチ先を今まで訪問しなかった対象施設、組織に広げ、県立病院の緩和ケア病棟や子どもたちの居場所づくりと学習支援を行うNPO法人と連携することを試みる事ができた。様々な事情があって配慮の必要な団体との連携によるアウトリーチ実施をとおして、演奏家とホール職員のアートマネジメント能力の向上が図られた。また、さくらホールとして新たに医療や福祉分野と連携することで、新たなステークホルダーの期待や要求、地域のニーズを把握し、成果を提供できる効果を得ることができた。

また、ウェブページ作成はコンテンツの検討に時間を要し、年度内の完成が難しく見送った。演奏家と地域のプラットフォームづくり、事業成果の情報発信を行う目的だが、単年度の計画ではなく、2~3年程度のスパンで段階的な計画の再検討を要する。

その他の事業においては、事業期間は概ね当初の計画通りに実行することができ、適切であった。

助成対象経費は、妥当性に記載したとおり実施見送りもあり、当初より減額になった。対象経費は当初より減額となった。その内、旅費実費にかかる経費が多いのが地方都市の現状である。地域の演奏家を活用することと、全国で活躍するアーティストと事業を実施することで得られる文化芸術体験値の向上も求められるため、事業の特徴に応じてバランスを取りながら充当している。各事業の助成対象経費は事業予算の執行精査による減少やチケット販売収益の増加により、対象経費全体の収支決算は約△5,500千円となった。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

自主事業では文化芸術が日常に溶け込む循環プロセスにおいて、アーティストと市民をつなぎ、文化芸術の交流により日常に新たな可能性を生み出し広がるきっかけを創造することを目指している。

「子どもの舞台芸術体験事業」では、第一線で活躍する講師が、各々の個性を尊重しながら舞台芸術の創造活動を体験させ、子どもたちの想像力や表現力を引き出した。保護者対象アンケートで、子どもの成長や新しい発見があったと回答したのは94%だった。講師と事業内容について満足していると解答したのは身体表現、音楽の平均で94%だった。更に、芸芸の習得を目的としない内容で、「習い事」に参加できない様々な事情を抱える子どもの居場所として社会包摂機能を果たしている。事業に継続的に参加している子どものうち、支援学級に通う子どもが約15%いる。幼少期から地域の公共ホールに通う子どもの居場所となり、地域の文化芸術拠点や文化広場としての存在感が増している。

「クラシック音楽普及のためのコンサートとアウトリーチ事業」と「いわての演奏家とつくる演奏会」の演奏家によるアウトリーチを、北上市内全中学校の特別支援学級や保育園、学習支援のNPO法人及び県立病院緩和ケア病棟など、多岐にわたる施設や組織と連携しながら17回実施し、合計212人に音楽の素晴らしさを届けた。アウトリーチの取り組みは、14年間継続して128回実施し、合計4,023人に及ぶ。

これらの施設の特徴を生かした運営や事業取り組みが評価され、平成29年度地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞した。「市民の文化活動拠点となるとともに、地元演奏家による音楽会、子どもの舞台芸術体験事業など育成にも力を入れ、まちの文化広場として地域に活力をもたらした。」との評価を得た。このように、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する事業、運営を行っている。

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

地域住民にとって文化芸術に親しむ機会を幅広く提供できるよう、公演鑑賞事業、人材育成事業及び普及啓発事業を組み合わせ、事業実施し、鑑賞者参加者それぞれの目的に応じて文化芸術との関わりを持つことができ、地域の多様なニーズに応じている。また、各事業を連携させながら発展的に展開することで、一つの事業成果から重層的な広がり生まれ、地域の文化芸術の発展につなげている。

「さくらホールパフォーマンス小劇場しょうげき！事業」では、「いわての演奏家とつくる演奏会」に登録する地域の演奏家を起用して、イタリア招聘のノンバーバル作品の音楽演奏を担当する機会を設けた。さくらホールの企画事業と舞台技術職員の専門性を生かして、全国4都市（北上・釜石・秩父・茅ヶ崎）の日本ツアーを制作した事業である。海外の創造性豊かな作品への出演とそのクリエイションは、地域の演奏家にとっても、音楽性や企画力を高める貴重な成長体験であった。更に、音楽ワークショップも手掛け、作品表現を楽しみ、出演者との交流を図る内容で全公演地で実施した。小学校や福祉施設等でのアウトリーチに活用できる内容となり、プログラム提案が増えるなど、事業連携の相乗効果があったといえる。優れた技能を持つ地域の演奏家は地域の大切な資源であり、その技能を伸ばし、活躍の場を提供するさくらホールの役割を果たしている。

このような事業取り組みは、岩手県内にON AIRされるラジオ番組を、施設内のサテライトスタジオから職員キャスターが毎週生放送している。また、ホームページの他、各種SNSを通じて約6,900人に情報提供している。その他、月刊誌と年2回北上市全戸配布を行う「さくらホールPress特大号」を発行。自主事業公演の見どころ解説や出演者取材記事を紹介している。舞台芸術への興味関心を高め、さくらホールの取り組みやその成果、ミッション等を市民への広報を通じて啓蒙し、地域文化の発展につなげている。



## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

安定的な収益基盤と財源確保の取り組みについては、北上市からの指定管理料は5年間同額で推移し、今後も確保できている。また、利用料金制度を導入し、施設の利用料金は自主事業の事業費と係る人件費に充当し、自主事業を充実させるという北上市との基本協定になっている。文化芸術の普及と利用環境の充実により、さらなる循環やメリットを生み出し、指定管理者の努力によって活用できる仕組みとなっている。利用料金収益は、平均すると毎年7千万程度確保している。その内、練習諸室分で4割を確保できていることが大きな特徴であり、また利用料金の減免措置がないことも安定的な利用料金収益の確保につながっている。以上のことから、平成30年度収支決算においては、当期経常増減額は黒字の収支増となっている。

平成26年度から30年度までを計画期間とする経営計画（第Ⅰ期）の計画更新のため、運営現状を分析し、収入構造、職員配置（舞台技術担当、サービスセンター受付担当、自主事業担当）、施設の稼働率、利用料金収益、収益事業等々の改善課題についての検討を行った。それを受けて、令和元年度から5年間の成果目標及び成果指数、経営戦略や人事戦略を盛り込んだ実施方策、収支計画、推進にむけた取り組み等を、盛り込んだ指定管理推進計画にまとめた。事務局内、理事会及び評議員会等で協議し、この計画を策定するなど、PDCAサイクルを回し、継続的に改善し、更なるさくらホール機能強化に努めている。

組織内での研修制度については、全国公文協のアートマネジメント研修、技術職員研修等に積極的に参加できる環境を整えている。その他、人事効果の項目に目標設定を盛り込んで、業務改善の目標と自己啓発の目標を設定して取り組むことでスキルアップを図り、職員のモチベーションを高めている。職員自ら計画した自己啓発研修に対しても、助成支援を行なうなど、人材養成に努めている。